

ちょっと振り返り。20周年を迎えた『プラスワン』

～一步踏み出す「勇気」が人生を変える。始めから欲張らず、まず「プラスワン」から始めよう～

【H8年～H23年】(株) チェリーコンサルタント 本條忠應 (建設・農業部門)

【H23年～H28年】(株) 石垣 吉田 智紀 (機械部門)

1. 私事ですが・・・(本條)

平成2年4月、九州支部の技術士会ではYCE(ヤング・コンサルティング・エンジニア)という会に入っていました。しかし、私自身の会員意識は薄く、年に数回の博多での例会に参加する程度でしたが例会終了後、懇親会の誘いも断り、博多を後にしていました。

結局、一度も懇親会には参加しませんでした。(今にして思えばもったいない話ですが、その当時の私にとってそれが精一杯の取り組みでした。しかし、この時の体験が現在のプラスワンの原型になっているような気がします)

2. プラスワン結成のいきさつ

プラスワン結成の3年程前の平成5年4月、私は水資源開発公団大山ダム(大分県)から高松にある吉野川開発局に転勤してきました。高松に転勤後、YCEから離れたこともあって技術士会に物足りなさを感じていたころ、一つの出会がありました。

それは当時の土質工学会(現地盤工学会)の幹事会で時折会う川邊敏弘氏でした。川邊氏はいつも自然体で話を受けとめてくれる人でした。私は、意を決して「プラスワン」のイメージを相談しました。その結果、2人が呼びかけ人となって「顔合わせ会」から始めることとなりました。

平成8年2月17日、「顔合わせ会」の当日は雪の降る寒い日でしたが、集合場所のホテル東急イン高松(1Fシャングリラ)には「志」を共有する6名の友が集うこととなりました。



「プラスワン発足会」(平成8年3月9日)

3. 5周年記念例会当日の企みと肩すかし

5周年記念例会(平成13年)はとても楽しみにしていた節目となるはずの会でした。

それは5年間のプラスワン活動をリセットし、新しい運営や方向性を模索するというものでした。そのため5周年の当日は結成時の5人のメンバーに「顔合わせ会」が持たれたホテル東急インでの昼食会を提案し、次なる5年間の展望や取り組みについて話し合ってもらおうと考えていました。

ところが集まった5人はひたすらランチバイキングを楽しむばかりで(笑)プラスワンの今後のことについては意見が交わされることなく、ついに私の企みは肩すかしに終わったのでした♪。そのため6年目からもやむなく事務局を継続することとなりました。

4. 運営方式の転換と新しい“潮流”

あることがきっかけで、8年目からはプラスワンの運営方法を変えることになりました。

それは7周年記念例会を過ぎたある体験でした。7周年記念例会は平成15年7月に開かれました。演題は「独立技術士になるためのノウハウ、課題と将来性」と題して講師には広島から出羽昭夫氏、岡山から小

林昇氏をお呼びし、地元香川から川田智氏
にお願いし盛大に開くことができました。

ところが7周年例会の後、これまでほぼ
2ヶ月に一回の割合で開いていた例会が4
ヶ月近く開くことができませんでした。実
は7周年例会の後、次回へ向けた気持ちの
高まりが一向に訪れず、例会の準備がで
きませんでした。ひょっとしたらこのころ“燃
え尽き症候群”の時期になってしまってい
たのかも知れません。この体験から、私は
事務局方式による個人運営型から、運営委
員会方式への転換を決意しました。

5. 理工系学生のキャリア支援の取組み

「理工系学生のためのキャリア支援」活動
は、高松市「遊友塾」への取組みから始まり
ました。

高松市「遊友塾」活動経過

支援先	回	年月	対象
高松市 「遊友塾」	第1回	H17. 1. 16	一般学生向 けセミナー
	第2回	H18. 1. 14	
	第3回	H18. 12. 02	

5.1 高松市「遊友塾」への取組み

高松市「遊友塾」は、高松市生涯学習センタ
ーの「遊友塾」事業の公募に対し、「一般学生
向けセミナー」として企画応募し、選考を経
て高松市教育委員会との共催事業として実
施（市助成金5万円）したものです。セミナ
ーではプラスワン会員の執筆による小冊子
「理工系学生のための資格・職業選び支援セ
ミナー」をテキストとして配布しました。



<高松市「遊友塾」第1回セミナーの様子>

5.2 香川高専「出前授業」への取組み

一般学生向けセミナーの「遊友塾」では、

香川県内の工業高校や高専、香川大学工学
部等の学生を対象にしていました。その後、
活動の場を参加者の最も多かった香川高等
専門学校に移すこととし、学校の窓口を通
じて「出前授業」としての企画を働きかける
ことになりました。その結果、平成18年か
らは、3年生を対象とした『キャリア概論』
として正規授業に組み込まれることとなり、
参画することとなりました。

〈本條〉

6. 事務局の引継ぎ

次に、事務局をおおせつかりました?吉田
が述べさせていただきます。私は、機械系
の企業内技術士として、プラスワンという
場は非常に居心地がよく、お世話になった
という意識もあり、事務局を引き受けるこ
ととしました。

最初に取り組んだのは、年間スケジュール
の策定でした。このころには技術士会四
国本部の設立もあり、技術士の活動・交流
の場は広まりつつありました。その中で、プ
ラスワンとして活動するには、ある程度年
間スケジュールを定めて、他組織との調整
が必要になっていました。また、各イベン
トの段取りも、記録して毎年悩まないよう
にはしました。

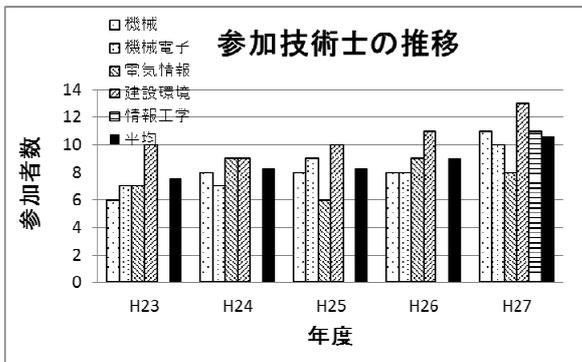
情報発信に関しては香川県技術士会と協
力するとともに、フェイスブックも活用す
ることにしました。

7. 出前授業の続き

出前授業も香川高専高松校で始めて数年
たちましたが、参加者の確保と、参加者の
スキルアップは、常に課題でした。徳島県
技術士会でも我々の取組みを参考に、出前
授業を始めたのですが、徳島が建設部門を
ターゲットにしたのに対し、香川では全学
科を対象としたので、参加者の確保に困難
を伴いました。技術士は様々な専門分野を
持った技術者の集団と称していますが、実
のところ地方技術士会は建設に偏っていま
す。私自身が機械ということもあって、全
学科対応は譲れないところでした。専門外

の学科にもかかわらず、参加してくれた皆様に感謝しています。

引き続き、学校側からは実施の要請がありますので対応していきます。ただ対象学科、学年を増やすのは建設部門以外の技術士が今まで以上に多く参加しないことには困難だと考えています。



8. 今後のプラスワン

プラスワンは今後も、技術士の交流の場を提供するとともに、出前授業を中心とした社会貢献にも積極的に取り組むべきと思います。またプラスワンは技術士の活動・交流の入り口としても機能しています。プラスワンのメンバーが新合格者に声をかけることで、交流の場の価値が出てきます。

課題としては、技術士会四国本部、香川県技術士会が機能している現状で、プラスワンの特徴を際立たせることにあります。

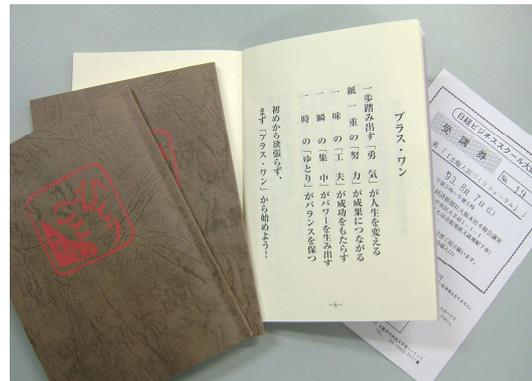
これからも紆余曲折を経つつも、「初めから欲張らず、まず「プラスワン」から始めよう！」という「プラスワン」の原点を大切に、新たな出会いを楽しみに歩んでいきたいと思っています。引き続きプラスワンの活動に熱いご支援をお願いします。

(吉田)

[プラスワン豆知識]

平成5年8月、日経新聞の小さな広告覧「日経ビジネススクール大阪」(土曜人脈づくりフォーラム)が目にとまりました。人づきあいの方を学ぶ機会を探していた私は、1万円の会費と大阪までの旅費を賭ける決断をしました。それが「プラスワン」という詩が入った「ひとりごと」(小冊子)を作られた田中勉先生主催の「土曜人脈づくりフォーラム」でした。その後、田中勉

先生には4周年記念例会の折り、講師としてご来高いただきました。



<「プラスワン」という『詩』がある小冊子と土曜人脈づくりフォーラム受講券>



<4周年記念例会にお招きした田中勉先生>

[プラスワンとは]

プラスワンは、技術士資格取得後の技術士を志した「初心や熱い思い」を継続実現させる研鑽・人脈構築のための“交流・舞台づくりの場”として、平成8年2月にスタートした会です。年会費・会則等は特になく会員の対象は、香川県在住または勤務経験及び賛同の志のある技術士です。

会員約100名の職業(職場)は、行政や企業、大学、研究機関等の多方面にわたっており、同時に業務にあたっては、いくつかの専門的資格を持ち、各分野で活躍しています。

これまでに例会や見学会等合わせ93回(年間5~6回開催)を重ねています。例会テーマ(科学技術、地域の課題、暮らし、環境、防災、見学会、学生のキャリア支援等)は会員アンケートで決定し、プレゼンターは自薦・他薦により実施しています。